第 65 回口腔衛生学会（２０１６、5/２７－２９):東京医科歯科大学
口腔衛生学会雑誌（２０１６、第２巻４月号）

水道水フロリデーションを目指す地域現場からの声

座長：日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会　眞木　吉信

水道水プリデーションに関する研究は、米国医学研究所において 1900～40 年頃にかけて、水に含まれた低濃度フッ化物の人の歯や全身健康に及ぼす影響に関する詳細な調査として実施されてきました。その結果、約 1 ppm （100 万分の１濃度）が、全身の健康を害さずう蝕予防に最適な水環境となることが判明し、1945 年１月 25 日、米国グランド・ラピッズ市にて、世界で初めての水道水フロリデーションが開始されました。

水道水フロリデーションは地域水道水のフッ化物濃度を歯の健康に最適となる濃度で調整することによって公衆衛生的施策として確立してきたものです 2014 年、国際歯科連盟（FDI）は全世界に向け､｢水道水フロリデーションによる口腔保健推進の重要性｣と題した推奨声明文を公表しています。今回の推奨声明は 2000 年以来３回目で、水道水フロリデーションの有効性と安全性を一貫して示したものとなっています。また、世界保健機関（WHO）を含む世界の 150 を超える医療・保健・福祉関連機関および政策的専門機関によって水道水フロリデーションの有効性と安全性が支持されています。

一方で、インターネットなどの情報源を通じて、う蝕予防のためのフッ化物応用の安全性や有効性を問題にしたり、“水道水フロリデーションが原子爆弾の開発製造と関連している”とか、ナチスドイツの強制収容所におけるユダヤ人管理の一環として開始されだといった根拠のない反対論が根強く存在することも事実です。

今回は、川崎市、吉川市および富岡甘楽地区の歯科医師会で、水道水フロリデーションを目指して活動しておられる３名の先生から、学会その他に対する要望も含めた現場の声を聞かせていただき、実現へ向けての適切な対応を考えたいと思います。

1．川崎市歯科医師会のフロリデーションの取り組み方

川崎市歯科医師会　加藤　尊巳

第 60 回日本口腔衛生学会・総会（以下本学会）｢健康社会とフロリデーション（以下 WF)｣に参加して以来、川崎市歯科医師会（以下本会）は以下の通り WF 啓発活動をしてきた。

1. 本会会館に WF 水サーバー設置
2. 市民・会員に対する講演、WF 水試飲
3. 韓国・横須賀米軍基地 WF 視察報告
4. 会員の WF 質問紙調査･

また 4．の結果は第 62・63・64 回本学会で発表をした。そこでわかったことは啓発を始めた頃は WF に対して消極的な意見がみられたが、啓発から約１年後の調査では消極的な意見の中に特徴的

な前向きな意見が含まれるようになったことである。それは障害者・養護施設などの施設内 WF や WF 水ボトル販売など施設や人々が選択できるものであれば賛同するという意見である。また WF のことを知った情報源は大学よりも本会の WF 啓発で知った割合のほうが大きかった。これは昨年の本シンポジウムで示されたように大学によってフッ化物応用の教育に格差がみられたことと関連があり、WF 啓発以前にすでに会員に WF 意識格差があったことを示唆している。

本会は市民の啓発と同時に会員意識格差是正に取組んできた。理由は市民とそのかかりつけ医である会員との信頼関係の中、会員が WF 反対では本会の啓発が市民には伝わらないからである。成果として本会会館設置の WF 水サーバーは会員のみの対象であったが併設診療所にも設置が認められ。

対象が患者まで拡大したことである。このように施設内で選択性のある WF 水による啓発は会員からの賛同が得やすく質問紙調査の結果ともリンクした。

この取り組みでわかったことは会員に対していきなり WF 実施を目指すというアプローチでは会員の意識は付いて行けず、ゆっくり段階的な取り組みをすることで会員の意識が歩み寄れるということである。会員の歩調を配慮して更なる前進を目指しているところである。

2. 吉川市の水道水フロリデーションへの取り組みの経緯と現状

吉川歯科医師会　戸張　英男

吉川市の水道水フロリデーション（以下 WF）への取り組みは、平成 12 年４月に開業歯科医師が市民グループを結成し、行政にＷＦ実施を提案。12 月議会で自民党議員が一般質問、市長は平成 13 年度施政方針で WF 検討部会の設置を表明、第４次古川市総合振興計画（平成 14 年度から平成 23 年度）にも WF を調査研究するとの文言が盛り込まれ始まった。

市民の認知度向上を目的に吉川市健康増進課は、平成 19 年度から吉川市健康増進計画（健康よしかわ 21）に WF 啓発を位置づけ具体的な活動を開始。「まちづくり出前講座」や講演会の開催、市ホームページや広報よしかわへの掲載、公共施設等にポスターやＤＶＤ（厚生労働科研班編）を配布し、市民まつりや魚つかみ取り大会といったイベントでは、フロリデーション水麦茶の試飲とリーフレット配布、意識調査等を実施してきた。

このようななか、平成 27 年２月の吉川市長選挙において WF 反対を公約に掲げる候補者が当選したため、行政はすべての普及啓発活動から撤退した。現在は吉川市フロリデーション推進協議会が継続して活動をしている。

市長選を通じてフロリデーション情報が誤って周知される結果になったため、「フッ化物応用の正しい知識」を市民に提供することが一層重要になった。今後は地元医師会の支援を受けながら、局所応用も含めたフッ化物の安全性・有効性について市民に啓発していく方針である。

課題として、誤った情報が流れ誤解が生じていることやより多くの市民の理解を得られていないことが挙げられる。そこで日本口腔衛生学に要望として「むし歯ゼロの健康長寿社会」を目指したフッ化物応用の更なる情報発信等をお願いしたい。

3．富岡甘楽地区の水道水フロリデーション啓発活動の経緯と今後の展望

公益社団法人富岡甘楽歯科医師会会長　萩原　吉則

私が開業している甘楽町は、長年にわたる歯科保健への取り組みが評価され、行政として初めて群馬県歯科保健賞を受賞した。2000 年６月には、この受賞を記念して、私が中心になり企画したシンポジウムを開催した。当時の読売新聞社論説委員をコーディネーターに、福岡歯科大学の境教授、毎日新聞社編集委員、ＮＨＫ解説委員、私の４人がシンポジストとして参加した。フッ化物利用や水道水フロリデーションの必要性について意見が一致し、町長、議員、一般参加者からも共感を得られた。このシンポジウムがきっかけになり、富岡甘楽歯科医師会は 15 年以上にわたるフロリデーション啓発活動に取り組むことになった。

下仁田町では、2003 年度から４年連続で、8020 推進財団から歯科保健活動助成の交付を受け、フロリデーションの実施を目指した。厚生労働科学研究班の技術支援を受けたフロリデーションモデル装置が完成し保健センターに設置され、下仁田町フロリデーション推進会議が提出した「フロリデーションの普及をめざした啓発活動の推進に関する陳情書」が町議会において趣旨採択になるなど、ある程度の成果を上げたが、残念ながら実施には至らなかった。

2007 年度からは、富岡甘楽歯科医師会が主体になり、９年連続で歯科保健活動助成の交付を受け、管内市町村の住民を対象にした啓発活動を継続している。フロリデーションの資料を全世帯に配布するなどの啓発活動を継続した結果、ある程度の知識をもつ住民は確実に増加している。富岡甘楽歯科医師会は、2012 年４月に公益社団法人に移行した。会が実施する公益目的事業として「住民のむし歯予防を目的に最良の公衆衛生的な対策であるフロリデーションを啓発する事業」が明記されている。

今後、国や県の積極的な支援があれば、フロリデーションを実施するための環境が十分に整うと考えている。学会には国レベルの環境整備をお願いしたい。